



連載コラム

国際交流員の活動日誌

vol.79



お気に入りの景色 (撮影: キヤメロン)

(キヤメロン)

「ご挨拶」

Introduction

英訳版を見る▶



こんにちは、キヤメロン。シエスラーと申します。アメリカのケンタッキー州出身です。今年の8月の初旬から伊達市で国際交流員として働いています。来日は今まで数回しましたが、東北は初めてです。伊達市に着いた途端、こんなに自然に恵まれていることにびっくりしました。青空の下に鮮やかな緑色に染まった山が並んでいる風景が風光明媚で、季節とともに変わることを楽しみにしています。

お店の料理を食べるだけでなく、伊達市の人の温かさや、親密な雰囲気を経験することができました。

イベントや学校訪問などを通して、市民の皆さんと交流することをとても楽しみにしています。子供の英語体験をお手伝いすることを中心に、英語への興味をそそったり、日本語講座で市内在住の外国人をサポートしたりすることができたらうれしいです。

アメリカの大学で勉強した科目は、日本と日本語を中心としたアジア研究でした。在学中に1つの短期留学と、2つの半年間の交換留学をしました。数えきれないほどの教授や日本人の同級生のおかげで、日本文化や日本語を楽しむことができました。今までの経験を振り返り、そのサポートのお返しをすることが夢です。これから伊達市の皆さんとたくさん交流できることを心待ちにしています！

地域の魅力 ふる里再発見

市柳熊坂家の歴史

令和5年度第2回企画展
市柳熊坂家の至宝

9/30(土)～

伊達市保原歴史文化資料館

伊達市保原歴史文化資料館では、企画展「市柳熊坂家の至宝」を9月30日(土)から開催します。本企画展では、市柳熊坂家に伝来する、絵師適山・蘭学者蘭齋兄弟のさまざまな資料を展示します。今回は市柳熊坂家の歴史とそれにまつわる展示作品の中で家譜(家系図)をご紹介します。

家譜によると、熊坂家の先祖は保元の乱(1156年)で源義朝に従い勇名を馳せた熊坂四郎長範とされています。ここから二十代を経た熊坂主計は、天正18(1590)年の豊臣秀吉による小田原攻めの際、わずか16歳で北条氏家臣に従い、伊豆国山中城に籠城したとされています。その後小田原城に移り小田原落城により、安達郡戸沢村(現:二本松市戸沢)へ逃げ延びたと伝えます。主計は戸沢村で結婚し、土佐が生まれました。その後土佐は伊達郡市柳村(現:保原

町)に移り住み、土佐から八代を経て適山・蘭齋の父である伝右衛門が生まれます。伝右衛門は造酒屋や養蚕業を営み、豪商であったことが記録などから読み取れます。

適山は先祖の足跡を調べて、ルートとなる長範にたどり着きました。しかし長範は江戸時代、義経に討たれた盗賊として舞台などで演じられていました。このことを大変残念に思った適山は長範の調査を行い、人物画の名手・高久隆古に長範の画を描いてもらいました。また熊坂家の正式な歴史を、隆古と親交のあった杉竹外に記してもらい、これを題讀(軸画についての由来や賛辞)とし、後世へ残したのです。



熊坂長範像 (高久隆古筆)